今語り継ぐ遠近（おちこち）巡り

巡りゆく「近江大津」の夢のあと

第３弾　近江に魅せられた天智天皇（てんじ てんのう）の夢

近江になぜ都が営まれたのか、天智天皇の構想を探る

667 年、天智天皇（当時は中大兄皇子（なかのおおえのおうじ））は、奈良の飛鳥から大津の錦織（にしこおり）一帯（近江神宮付近）に都を移しました。それまでの常識を覆す遷都の背景のひとつとして、以前からこの地に経済基盤を築き、土木・製鉄・製陶等に高度な技術と、学識を有する百済系渡来人（くだら けい とらい じん）が多く住み、びわ湖や周囲を山々に囲まれた、豊かな自然と資源に恵まれたことから、統一国家の建設には理想的な土地であったということが考えられます。

夢の実現に向けて、「近江令（おうみ りょう）」の制定や、課税・徴兵などを課すための個人情報を把握する「庚午年籍（こうごねんじゃく）」台帳の作成等、諸施策を着々と実施しました。

魅力満載 QR コードを検索しスマホで楽しくまち歩き

（大津市教育委員会）

（大津市教育委員会）

（大津市教育委員会）

1. 錦織遺跡

飛鳥時代に天智天皇が近江国滋賀郡に営んだ都天智 6 年（667）に飛鳥から近江に遷都した天智天皇（てんじてんのう）はこの宮で正式に即位し、近江令や庚午年籍（こうごねんじゃく）など律令制の基礎となる施策を実行しました。
現近江神宮と皇子山公園の間の錦織遺跡が宮跡とされています。

2. 近江神宮

天智 6 年（667 年）に同天皇が当地に近江大津宮を営み、飛鳥から遷都した由緒に因み、紀元 2600 年の佳節にあたる昭和 15 年（1940）の 11 月 7 日、同天皇を祭神として創祀された。天智天皇が日本で初めて水時計（漏刻）を設置した歴史から境内には各地の時計業者が寄進した日時計や漏刻などが設けてあり、時計館宝物館と近江時計眼鏡宝飾専門学校が境内に併設されています。

3. 南滋賀町廃寺跡

大津宮関連遺跡の一つで、現在の南志賀一丁目・二丁目に位置する。昭和初期に大津宮の位置を究明する目的から崇福寺跡とともに発掘調査が実施されて以降、複数回にわたって調査がおこなわれました。

飛鳥の川原寺と同じ伽藍配置で、中門を入ると東側に塔、西に西金堂が対峙し、その北側に金堂・講堂が順に並び、講堂を囲むように三方に僧房を配する。

金堂・講堂・西金 堂・塔跡は瓦積み基壇をもつ。また出土遺物から 7 世紀後半の白鳳時代から平安時代末期まで存在していたとみられます。現在は一部が公園となり塔心礎や回廊の礎石が残っています。

4. 百穴古墳群（ひゃくけつ こふん ぐん）

全体的に削られたり流失したりしていて明確ではないが、すべてドーム状の横穴式石室をもつ円墳とみられる。

古墳群のうち一基には花崗岩製のくり抜き式の石棺が安置され、今も見られる。石室の構造から 6 世紀後半頃のものと考えられます。

国指定史跡です。

5. 崇福寺（すうふくじ）跡

白鳳時代から室町時代にかけて存在した寺院の遺跡。崇福寺は、668 年に天智天皇の命により近江大津宮の北西の山中に建立され（『扶桑略記』ほか）延暦年間に十大寺に選ばれるなど栄えたが、たびたび火災にみまわれるなど衰退し、一時園城寺に付属したものの山門寺門の抗争に巻き込まれるなどし、室町時代には廃寺となった。

寺跡は昭和 3 年（1928 年）からの発掘によって確認。

現在の跡は梵釈寺（桓武天皇が天智天皇追墓のために建立）と複合遺跡と考えられています。

6. 穴太（あのう）廃寺跡

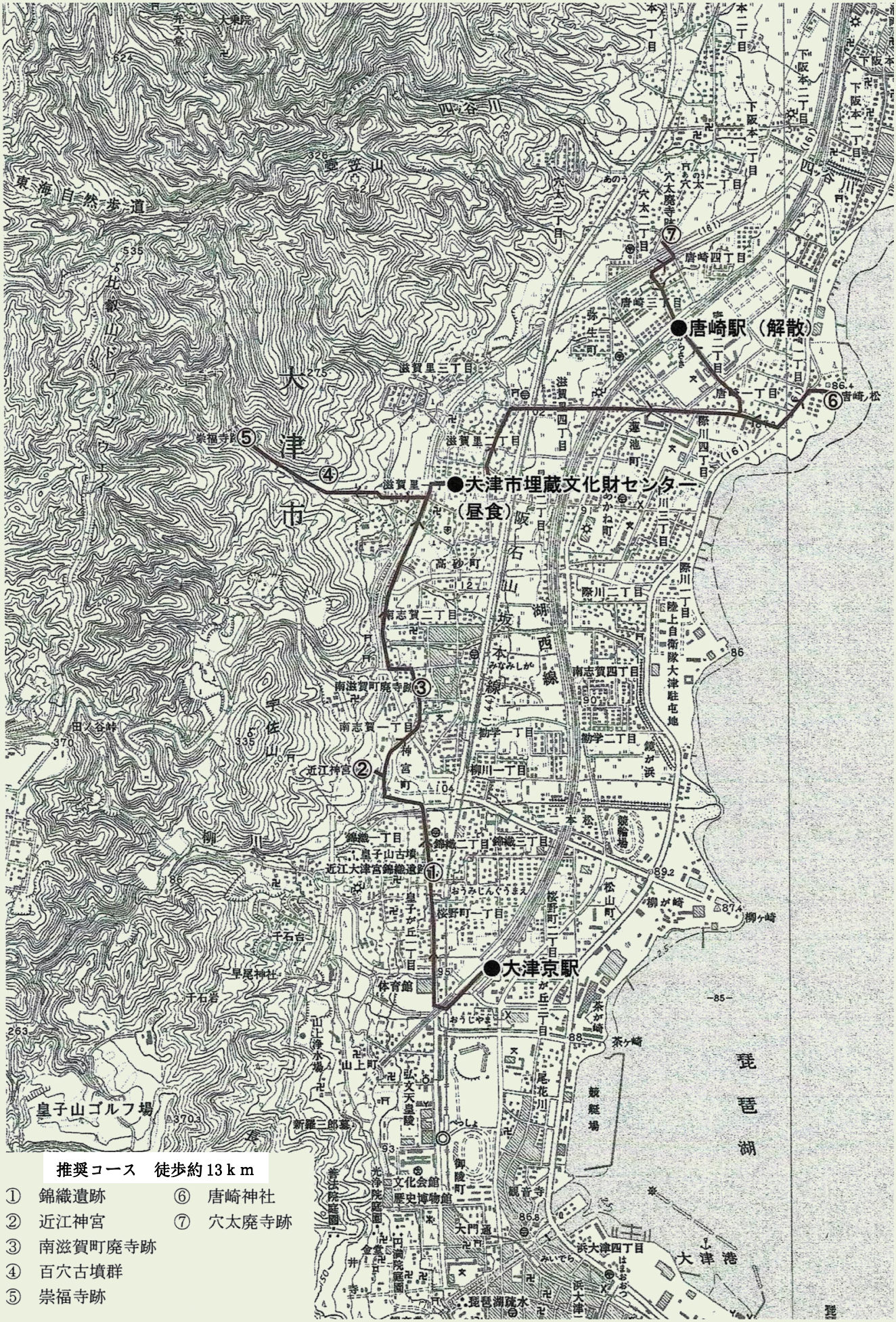
大津宮関連遺跡の一つ。昭和 59 年（1984）の発掘調査で二つの時期の伽藍（がらん）配置をもつことが判明。そのうち創建当初の伽藍配置は明確ではありませんが、再建時のものは、西に金堂、東に塔、北に講堂といった奈良の法起寺式伽藍配置でした。

講堂跡付近から、せん仏・銀製押出仏等が出土し、その出土遺物から平安時代中頃まで存続していたとみられています。

（滋賀県教育委員会）

（滋賀県教育委員会）

穴太廃寺復元図
唐崎駅
市埋文
大津京駅
遠近巡り見学コース
① 錦織遺跡
② 近江神宮
③ 南滋賀町廃寺跡
④ 百穴古墳群
⑤ 崇福寺跡
⑥ 唐崎神社（唐崎の松）
⑦ 穴太廃寺跡
0
1km



推奨コース　徒歩約13ｋｍ

① 錦織遺跡
② 近江神宮
③ 南滋賀町廃寺跡
④ 百穴古墳群
⑤ 崇福寺跡
⑥ 唐崎神社
⑦ 穴太廃寺跡

大津市協働提案制度（テーマ型提案事業）
大津市産業観光部（観光振興課）
大津市教育委員会（文化財保護課）
大津市瀬田東文化振興会

発行所：大津市瀬田東文化振興会
大津市一里山 3 丁目 16-1　大津市瀬田東公民館内
編集者:竹内稔
発行責任者：松田文男